

根元直径8cmの支障木を刈払機で伐倒整理切断中にキックバックし、左足中指に接触、負傷した

📎 災害概要

- ▶原因：キックバック 刈払機 ▶発生月：5月 ▶FW研修：2年目
- ▶年齢：33歳 ▶受傷部位：左足 ▶傷病名：切創、骨折
- ▶作業内容：間伐準備

👤 発生状況

傾斜35度。間伐個所で刈払機を使用してかん木を除去する伐採前作業。
根元直径8cm、樹高4mの支障木を伐倒し、整理切断中に刈払機がキックバックし、左足中指に接触・負傷した。

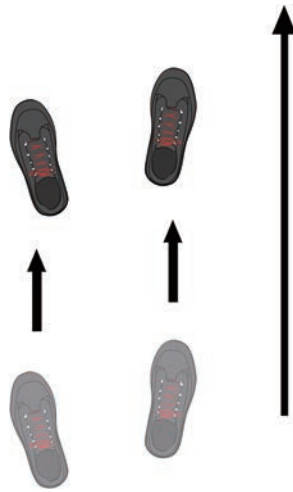


原因

枝払い中のキックバック発生。

再発防止対策

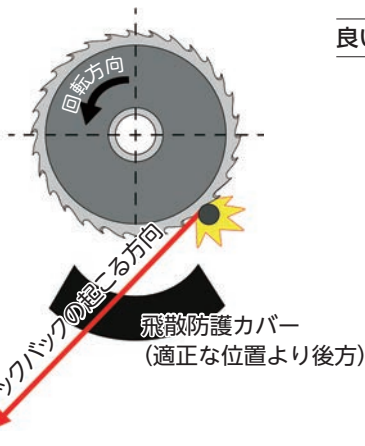
- 根元直径 8 cm と小径木であっても刈払機の処理能力を超えており、チェーンソーでの作業を選択する。
- 腰バンド、股バンドの着装。



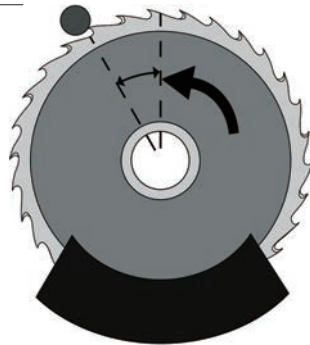
左足を後方にわずかに引いた位置とします(左図)。まず、右足を小幅に踏み出し、左足がそれについていくように足を進めます

足の位置と進め方

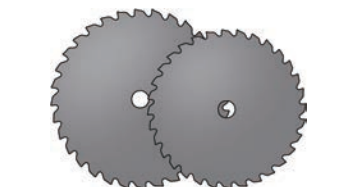
悪い例



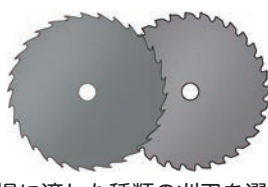
良い例



かん木の刈払い位置の悪い例と良い例。悪い例のように、右手前の位置で切ろうとするとキックバックしたときに自分に向かってくるので大変危険です



現場に適したサイズの刈刃を選択



現場に適した種類の刈刃を選択 (笹刈刃、チップソー、のこ刃など)

現場環境に合った刈刃を選びます。太いかん木がある場合は、チェーンソーでの作業に切り替えるなどすると良いでしょう



現場に適した機械・道具を選択 (かん木処理) (チェーンソー(小型)・手ノコ・ナタなど)

左足を大きく前に出しながら刈払いをしていた時に、キックバックして左足に切創を負った

災害概要

- ▶原因：キックバック 刈払機 ▶発生月：6月 ▶FW研修：2年目
▶年齢：21歳 ▶受傷部位：左足甲部 ▶傷病名：切創 ▶作業内容：下刈り

発生状況

傾斜30度。カラマツ林齢3年生。

刈払機で下刈り中に刃が伐根に当たりキックバック。

研修生が転倒しないように左足を出していたところ、刃が左足甲の部分に当たり親指付け根から足首方向に長さ4cm程度の切創を負った。

腰バンド、スパイク付きブーツを着用。



原因

下刈り中、伐根に当たりキックバックが発生。

再発防止対策

- 腰バンドだけでは位置がずれる。股バンドも装着する。

● 刈払機作業におけるケガの特徴 ●

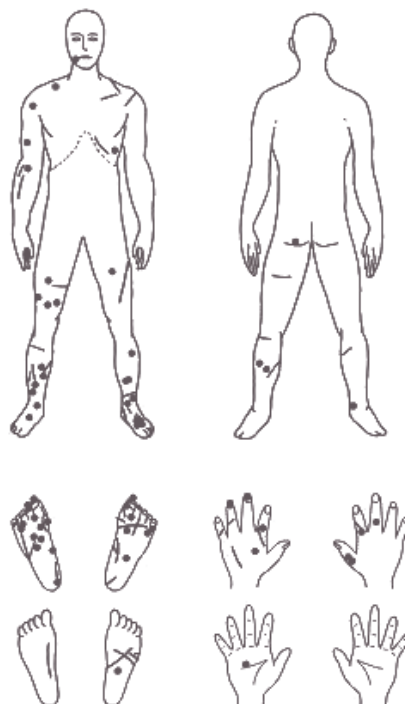
刈払機作業中の災害で、休業を伴った災害に限定して、その加害物で分けると、「刈刃」、「飛来物」、「その他」に分けることができます。このうち、加害物の中で最も多かったのは刈刃で、加害物の判明している事例142例中103例に達し、その被災の位置は図のようになりました。

刈刃が当たった事例の被災要因は転倒、バランス崩し、転落・滑落などの「転ぶ」にまとめられるものが46%、「キックバック」が42%となり、「転ぶ」と「キックバック」が刈刃の当たる主な要因となっています。その他の要因には、機械の操作ミス、作業姿勢の悪さ、ハチに追われた、機械の破損などがありました。

刈刃によるケガの特徴は被災部位が下半身に多いことです。今回の分析では「ひざ膝から爪先」が72%で、特に「足首から爪先」は56%に達しました。左右の別では、左脚は右脚の2倍以上の件数になりました。爪先付近に被災が多いのは、転ぶ、キックバック、機械誤操作のときに爪先が刈刃に最も近い部位であるためで、左脚に多いのは左足を斜面下方に置く場合が多く、刈刃は左足近くにある頻度が高いため転倒などの際に左脚に刈刃が当たりやすいと思われます。

図の被災位置のうち、頭部と胴に刈刃が当たった事例はすべてツェーグリップ（一本棒）型刈払機を使用していた場合で、両手（U字）ハンドル型では被災部位が手足に集中していました。このことから、ツェーグリップ型では小さな傷でも命にかかわる位置に被災する可能性が高いことがうかがえます。

（出典：森林利用学会誌25巻2号「刈払機を用いた作業の災害分析」）



下刈り中に近くの残材に 刃が触れてキックバックが発生し、 右足ふくらはぎ内側を切創

災害概要

- ▶原因：キックバック 刈払機 ▶発生月：7月 ▶FW研修：2年目
- ▶年齢：21歳 ▶受傷部位：右足ふくらはぎ ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：下刈り

発生状況

傾斜40度。スギ植林地。刈払機にて下刈り作業。

足を滑らせて体勢を崩したことにより刈払機から右手を離してしまい、近くにあった残材に刃が触れてキックバックが発生。

刃が右足ふくらはぎ内側に触れ切創（Uハンドル、3点式肩掛けバンド、すねガード着用）。

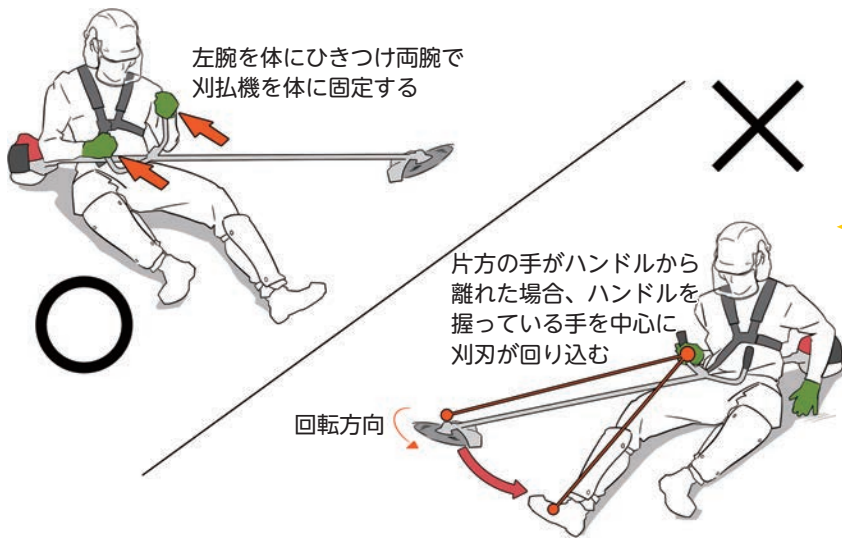


原因

体勢を崩したことによるキックバックの発生。

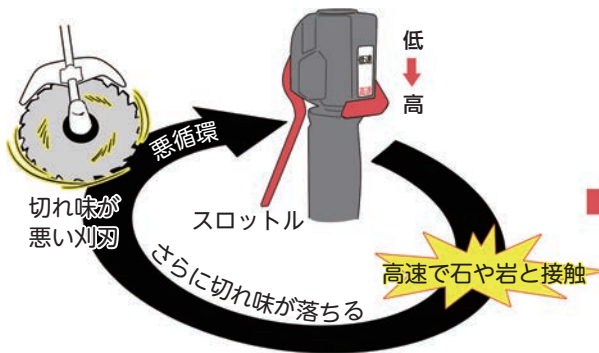
再発防止対策

- 腰バンド、肩バンドの着装。
- 急傾斜地での歩行注意。



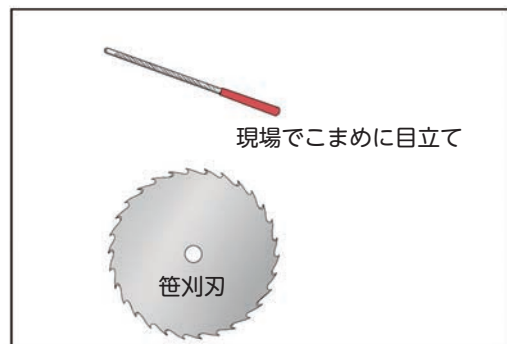
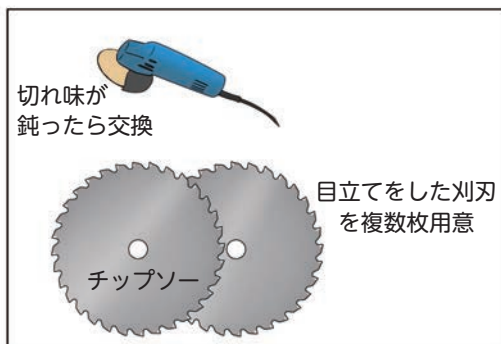
滑落・転倒時の体の守り方 (良い例・悪い例)

滑落・転倒をしてしまった場合、機械は両腕でしっかり体に引きつけ固定します。片方の手がハンドルから離れてしまうと、刈刃が思わぬ方向を向いてしまい危険な状態になります (参考: 石垣正喜「刈払機の安全作業ガイドー基本と実践」全国林業改良普及協会)



刈刃の切れ味が悪いと回転数を上げることになります。高速回転でキックバックを起こすと危険です。刈刃の切れ味が良ければ低い回転数で作業できるので安全につながります

高速回転でキックバックを起こすとより危険！
適正な回転数を保つには、切れる刃を保つこと



刈刃は常に切れる状態にする (目立て)

刈刃が切り株に当たりキックバック発生。弾かれた刈刃により右足内側の親指つけ根に切創を負った

📎 災害概要

- ▶原因：キックバック 刈払機 ▶発生月：8月 ▶FW研修：1年目
- ▶年齢：31歳 ▶受傷部位：右足親指つけ根 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：下刈り

👤 発生状況

傾斜25度程度。スギ植林地。刈払機にて下刈り作業。

刈払機の刈刃が切り株に当たりキックバックが発生。弾かれた刈刃により右足内側の親指つけ根付近を切創した。

ツェーグリップハンドル、肩掛けバンドで作業。



原因

切り株に触れたことによるキックバック。

再発防止対策

- キックバックの発生する仕組みの理解(105頁参照)。
- 腰バンド、股バンドの着装。

●刈払機のタイプ ●

肩掛式刈払機(Uハンドル)、ツェーグリップ式刈払機、背負式刈払機のループハンドル。タイプごとに特徴が異なります。

